

# 黒潮

和歌山県看護協会 会報

平成27年8月発行

第132号

## 発行所

和歌山県看護協会

〒642-0017

海南市南赤坂17

TEL:073-483-1005

FAX:073-483-1266

<http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp>

## 発行人

古川 紀子



写真提供／高野町立高野山総合診療所院長 廣内幸雄氏

## CONTENTS

- 平成27年度事業開始にあたって …… 2
- 瑞宝単光章受章者 …… 2
- 日本看護協会会長表彰受賞者 …… 2
- 平成27年度新理事あいさつ …… 3
- 和歌山県看護協会会長表彰 …… 3
- 日本看護協会名誉会員としての資格を得て …… 4
- 保健師のコーナー …… 4
- 助産師のコーナー …… 4
- 看護師のコーナー …… 4-5
- 専門認定看護師のコーナー(トピックス2015) …… 5
- 地域連携のコーナー …… 6
- 医療安全数珠つなぎ …… 6
- 私の〇〇 …… 6
- リレーエッセイ 友達の輪 …… 7
- 訪問看護ステーションだより …… 7
- フレッシュユース …… 7
- My Hospital …… 8
- 和歌山県看護協会の動き …… 8
- まちの保健室 …… 9
- 平成27年度役員・各委員及び地区支部長名簿 …… 10
- 知事とメディカル・スタッフ団体及び病院協会長との懇談会 …… 11
- 新人看護職員オリエンテーション開催 …… 11
- 世界禁煙デーフォーラム2015に参加して …… 11
- 知って得する看護協会だより …… 12
- プレゼント …… 12

## 和歌山県看護協会 会員数

平成27年7月27日現在

会員総数	5,469名
名誉会員	1名
保健師	124名
助産師	199名
看護師	4,936名
准看護師	209名

## 平成 27 年度事業開始にあたって

公益社団法人 和歌山県看護協会 会長 古川 紀子



会員の皆様におかれましては、平素から、和歌山県看護協会の事業推進にご支援ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

平成 27 年度通常総会が 6 月 13 日に行われ、多数のご参加を頂き無事終了いたしました。ご協力ありがとうございました。また、10 名の方が和歌山県看護協会会長表彰を受賞されました。おめでとうございます。

平成 27 年度も新たな役員体制のもとで、新看護研修センターで事業が動き始めました。

和歌山県看護協会は、公益社団法人として 4 年目を迎え会員の皆様、県民の皆様に貢献できる看護協会をめざして参ります。

県民の皆様が、地域でいきいきと安心して生活できる環境づくりが求められており、看護職の役割が拡大し、一層重要となってまいります。

今後も、看護の質向上、看護職が生涯を通して

安心して働き続けられる環境づくり、人々のニーズに応える看護領域の開発・展開を使命として活動して参ります。

重点事業「看護実践能力及び専門性の強化」につきましては、通年の事業に加え、「救急分野」の認定看護師教育課程を開講いたします。「看護職が働き続けられる環境づくり」につきましては、今年 10 月から医療機関等を退職する看護職員のナースセンターへの届け出が義務化されます。潜在看護職員復職支援研修、サテライト開設等ナースセンターを看護職確保・定着の総合拠点としての機能強化を積極的に図って参ります。

医療看護を取り巻く環境が大きく変化する中、これまで以上に看護職への期待が高まっており、看護職能団体としての役割を果たして参ります。

これからも皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 瑞宝単光章受章者

小松 仁美



この度、平成 27 年春の叙勲（瑞宝単光章）を受けました。この栄えある章に浴しましたのも、ひとえに永年にわたり皆様方からいただいた御指導御鞭撻の賜と心より感謝申し上げます。私にとって思いがけない章に驚きと戸惑いで心の中が揺れ動きました。なぜならば、看護において特別な功績を残している訳でもなく、また他の人よりも秀でるものがありませんのでこの章を受けていいのか自問自答しました。しかし、先輩の温かいお言葉や同僚、後輩の励ましにより晴れや

かな気持ちになりました。これまで私の看護の人生を振り返りますと、病院が新しいことに手掛けようとするときは、偶然とは言え第一歩にかかわることが多かったように思います。そういう経験から変革をチャンスとしてとらえられるようになり、やりがいをもって看護に従事できました。今回の機会ですべて改めて看護に従事できた喜びを実感しています。

今後ともこの栄誉に恥じることをないよう一層精進してまいります。

### 日本看護協会会長表彰受賞者

白浜はまゆう病院 東 直子



6 月 9 日神戸で開催されました日本看護協会通常総会で、日本看護協会会長表彰の受賞を賜り、身に余る光栄でございます。これも和歌山県看護協会会長様はじめ会員の皆様のご尽力の賜物と深く感謝いたします。看護師となり 40 年余りすぎましたが、看護協会の活動に

携わる中で専門職として育てていただき、また委員会活動では、委員の皆様が支えて下さり、楽しく活動ができたことに大変感謝しております。

今後も、協会での役割が果たせるよう努める所存です。どうぞ、ご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

## 平成27年度 新理事あいさつ



会員の皆様のご協力のもと、会長を補佐し  
県看護協会の発展に尽力します。

副会長 **東 直子**



古川会長のもと他の理事と協力し目的達成  
に向かい頑張ります。

専務理事 **小泉 美穂**



看護協会の目的達成のため、微力ですが役  
割を果たすよう努めます。

書記長理事 **山本 美代**



職能の課題解決と質向上に向けて、真摯に  
頑張ります

保健師職能委員理事 **櫻根 桂子**



皆様のご協力のもと活気ある助産師職能活  
動を目指します

助産師職能委員理事 **坂本裕美子**



看護職の質向上のため、微力ですが精一杯  
がんばります。

看護師職能委員 I 理事 **澤田 康幸**



看護の質を高め地域に貢献できる活動とな  
るよう尽力いたします。

和歌山地区理事 **松尾 文美**



会員の皆様とともに魅力と実りのある地区  
支部を目指し尽力します

海南・海草地区理事 **清水多津子**



地域医療での看護職の活躍を支援するよう  
努めたいと思います。

田辺地区理事 **松元 由美**



地区支部の皆さまと共に、地域に貢献でき  
るよう努めてまいります。

新宮・串本地区理事 **佃 瑞穂**



法人運営が適正に行われるための役割を担  
いますので、勉強しながら頑張ります。

監事 **澤越 純子**

## 和歌山県看護協会会長表彰

表彰された皆さんの声を聞いてみました！

① 抱負・モットー ② 後輩に伝えたい一言



- ① 聴く力・伝える力・見守る力
  - ② 気負わずに続けてみて。遊びも忘れずに。
- 有田振興局健康福祉部 **由良 早苗**

- ① 人に支えられていることの感謝を忘れない。
  - ② 仕事の壁は、あなたを成長させてくれるはず！
- 西牟婁振興局健康福祉部 **尾崎 則子**

- ① 常に謙虚で、感謝を忘れず、日々を大切に過ごす
  - ② 看護職を目指した理由を時々思い出し、初心に戻る
- 和歌山県立医科大学附属病院 **塩路 有理**

- ① 仲良く、正しく、明るく、ありがとう
  - ② 初心を忘れないようにいつも振り返って下さい
- 医療法人富田会 富田病院 **河原 恵子**

- ① 苦あれば楽ありの言葉で頑張ってきました。
  - ② 継続は力なり 看護師という職業を誇りに思う。
- 特別養護老人ホーム カルフル・ド・ルポ印南 **佐藤 房子**

- ① その日その日が一年中で最善の日である
  - ② この一瞬の出会いを大切にしてください
- 和歌山県立医科大学附属病院 **角谷知恵美**

- ① 与えられた場所で、黙々と励む
  - ② 「あなたでよかった」 そんな一言が支え
- 日本赤十字社和歌山医療センター **大江美佐子**

- ① 良い環境で療養し早期退院できる援助をする
  - ② 受け身でなく積極的に知識を吸収して下さい
- 国保野上厚生総合病院 **小濱 英子**

- ① 少しでも長く、地域に貢献した働き方がしたい
  - ② 患者・社会が求めている看護を提供してもらいたい
- 国保日高総合病院 **坂本 昌子**

- ① 明るく・楽しく・前向きに
  - ② 失敗を恐れず何事もチャレンジ
- 紀南病院 **福山 悦子**

## 日本看護協会名誉会員としての資格を得て

名誉会員 谷 眞子



この度、日本看護協会名誉会員として資格を得られましたことは、会員として大変光栄に存じます。看護職としてその時を生きる者として、看護界に少しでも役立つことをすべきという信念のもと

にこれまで看護制度委員・県看護協会長として努力してきました。

これまで活動できましたことは会員皆様のご支援が得られた結果であり、感謝しております。今後も看護を天職と考え、看護界に役立つことができれば幸せと考えております。

## 保健師のコーナー

保健師職能委員長 櫻根 桂子



保健師職能委員長を2期目務めさせていただくことになりました。今年度も、保健師の連携強化、資質の向上を目標に、皆様のご協力をいただきながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

さて今、生活全体を支える視点で地域を包括的にケアするシステムの構築の実現に向けた取り組みが始まっています。私にとって、この地域包括ケアシステムについて、学習していかなければならないことがいっぱいありますが、平成25年4月に厚生労働省健康局長通知で発出され、自治体で働く保健師活動の基本的な方向性が示された「保健

師活動指針」を活かしていくことが重要であると考えます。地域診断により地域のニーズや資源を把握し、システムづくりに反映させるというPDCAサイクル(plan-do-check-act cycle)に基づく保健活動を実践すること、統括保健師の配置、健康寿命を延ばすための重症化予防・介護予防、質の高いサービスを常に提供できるように継続的な研修、そして保健・医療・福祉・介護分野の保健師が相互に連携し推進していくことです。具体的に、指針をどのように活かしていくのか、PDCAサイクルをどのように廻していくのかなど、県・市町村の保健師が共にそれぞれの役割を理解し分担しながら進めていく必要があることを真剣に考え働きかけていきたいと思っております。

## 助産師のコーナー

助産師職能委員長 坂本 裕美子



今年度より助産師職能委員長をさせていただきます。会員の皆様や委員会メンバーのご協力をいただきながら精一杯頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。いよいよ平成27年8月より助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)レベルⅢ

の認証申請が始まります。書類審査と客観的試験に合格すると、自立して助産業務ができる能力がある「アドバンス助産師」として認証され、11月には全国で約2,000人もアドバンス助産師が誕生すると想定されています。

日本看護協会では「助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)認証制度の普及」を重点事業として、クリニカルラダー一認証制度の確立と認証申請のための支援や助産師出向システムの推進、院内助産システムのさらなる推進等の取り組み

が挙げられています。平成27年度の助産師職能の活動目標として、①助産師のキャリアパス・助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)の普及と啓発、②助産実践能力向上のために、キャリアアップ研修の開催、③思春期教育出前事業による地域に根ざした活動実践の3点を掲げております。キャリアアップ研修会として、助産師職能集会における「産科診療ガイドラインにそって助産師の役割」、3職能合同研修会「メンタルヘルス」、助産師研修会「産科医療補償制度と助産記録」、「産科救急(仮)」を計画しております。さらに、助産実践能力強化に向けて2回の近畿地区助産師合同研修会を予定しております。一人ひとりの助産実践能力の向上を目指して、多くの皆様のご協力と各研修への参加をお待ちしております。

## 看護師のコーナー

看護師職能委員長Ⅰ 澤田 康幸



今年度から看護師職能委員会Ⅰの委員長をさせていただきます。このような大役を任せ付かることになり、自分ができるのかという不安もありますが、精一杯頑張りますので御指導のほど宜しくお願い致します。

この20年で患者の高齢化や在院日数の短縮、看護基礎教育における大学の充実等といった社会・医療において様々な変化が生じています。このように医療提供体制が変化中、外来、在宅、介護分野などの多様な領域における質の高い看護が求められます。

また、2025年には認知症の方が700万人に達すると予測

されています。それら多くの方が、住み慣れた環境で安心して暮らし続けられる社会の構築に向け、病院以外の場で働くスタッフも含め、看護職には大きな期待が寄せられています。以上のような社会情勢を踏まえ、看護師職能委員会Ⅰ(病院領域)と看護師職能委員会Ⅱ(介護・福祉関係施設・在宅等領域)が連携を密にとり、自分達は何が出来るのかということを議論して、少しでも皆様の役に立てるような活気のある委員会活動を行っていきたくと考えています。看護師職能委員長として、和歌山県の看護の質向上に繋がるよう、皆様の御意見を聞きながら活動を行っていきたくと思っております。10月31日(土)には、職能集会を開催いたしますので、多くの皆様の参加をお待ちしております。



昨年度より看護師職能委員会Ⅱに参加させていただき2年目になります。

超高齢社会、2025年問題が取り上げられ、看護師職能委員会Ⅱが創設された2011年に病院から今の訪問看護ステーションに異動になりました。それまで在宅医療に関わる機会が少なく、病院でしか勤務したことがなかったので、不安と期待が入り混じった複雑な心境での異動でした。しかし、在宅で過ごされる療養者や家族の方を見て、病院は治療を受ける場所であって、治療が終われば速やかに在宅へ戻り、その人らしく過ごすことが望ましいと強く思いました。これから医療提供体制は、さらなる在院日数の短縮化が図られ、地域や在

宅など暮らしの場で長期的に医療依存度が高い高齢者を支える仕組みが必須になります。地域住民が住み慣れた地域で最期まで安心して暮らせるまちづくりをしていくことが課題になっています。その中心となるのが看護師であり、コーディネーターとしての役割は重要です。また、急性期の医療を受けた方々の後を支援する場での看護の機能強化が必然です。しかし、介護施設や訪問看護ステーションで働いている看護師は、少人数のところが多く、研修会があってもなかなか参加できない現状にあると思います。それをふまえて委員会メンバーとして、介護領域で働く看護師の実践能力の向上、マネジメント能力強化を目的に、一人でも多く参加していただけるような研修会の企画に参加させていただきたいと思います。

## 専門認定看護師のコーナー トピックス 2015

### 「認知症の人ではなく、認知症の人への看護」

和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院 認知症看護認定看護師 岸田 悦子



昨年の7月に和歌山県で初めての認知症看護認定看護師の資格を取得しました。認知症看護認定看護師には、認知症を患った方の権利擁護、生命・生活の質を守るための療養環境の整備、他疾患合併による影響を考えた治療援助を含む環境管理、自己決定の支援など、認知症の人および家族のサポートや看護職に対する指導・相談などの役割があります。

高齢者の約4人に1人が認知症、またはその予備群(MCI)といわれており、高齢化に伴い、その割合はさらに増加し、2025年には約700万人に上ると予測されています。認知症の方が、認知症と共によりよく生きていくことができるような環境整備が必要であるという考えから、2015年1月に認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)が策定されました。「認知症の人の意思が尊重され、できる限り、住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を目指す」というものです。

認知症を患った方は、物忘れなどの中核症状に

よって病院・施設・在宅などあらゆる場面で生活に支障をきたしています。特に病院では入院という環境の変化によって、症状の悪化につながることがあります。そのため、私たち看護師も、認知症の方にとって環境の一部であることを認識して接しなければなりません。上手く言葉にできない訴えや、その行動を起こしている理由を、表情や言葉、今までの生活歴や性格など、一人ひとりに合わせて多方面から考えていくことが大切です。認知症を患うと何もわからなくなるのではなく、感情の部分はしっかりと残っていることを理解したうえで、個人を尊重した関わりが重要となってきます。そうすることで認知症の方の感じる環境の変化を最小限にすることができるのです。

認知症状にばかりとらわれず、**認知症の人**ではなく、**認知症の人の看護**をさせてもらっているという認識で、認知症を患った方が笑顔で生活できるように皆様と連携して取り組みたいと考えています。

## 地域連携のコーナー

### 国保日高総合病院の 地域医療連携室の紹介

地域医療連携室 社会福祉士 楠本 祐史



当院の地域医療連携室は社会福祉士4名、看護師1名、事務員1名で構成されています。

主な業務は、地域の医療機関と病院の連携の窓口となり、外来事前診療予約受付をする前方連携と入院された方の地域への退院支援を行う後方連携です。入院を契機に身体機能が低下し、これまでの生活ができなくなる方に対して、介護保険制度をはじめとする種々の制度利用を勧めたり、施設入所のお手伝いをしたり、他病院への転院調整などを行っています。

医療福祉相談業務においては、入院・外来を問わず、経済的な相談や社会資源についての相談にも応じております。

平成25年度から在宅介護拠点事業を和歌山県から受託し、病気をもちつつも可能な限り住み慣れた場所で自分らしく過ごす事が出来る地域づくりを目指し、地域の関係機関と連携を図ることや地域住民の方に対して講演会を催す等、病院の外に向けた働きかけが生まれています。

具体的には多職種連携ネットワーク「フレンズつながり」

の事務局を担い二ヶ月に一度、医師・歯科医師・看護師・ケアマネジャー・薬剤師・社会福祉士・介護職員等、専門職の交流の場を設けることや、行政と連携し住民の方向けの社会資源マップ・リストを作成し配布することに尽力しています。

また、がん患者様やその家族の方のための患者サロンを月1回催しております。平成26年からの開始ですのでまだまだ日は浅いですが「こんな所が欲しかった」「ここに来るのが楽しみ」と言った声をいただくと継続していく意味は非常に大きいと考えています。

我々は、患者様と院内職員のつなぎ役であり、また、地域の関係機関とのつなぎ役でもあります。相談をいただき、問題の解決に向け一緒に取り組むことが重要であると考えます。分からないことは多々あると思いますがその都度確認し、窓口として患者様や家族様の安心につながるよう今後も努めていきたいと思います。

国保日高総合病院の地域医療連携室に気軽に声をかけてください。

### 医療安全

### 数珠つながり

### 新宮市立 医療センター

坂本 美弥



(医療安全管理室メンバー)

私は、今年度専従の医療安全管理者となりました。毎日何かに追われているような日々を送っています。医療安全管理者は、患者だけでなく、医療従事者を守ることも常に念頭において活動しなければなりません。まだまだ力不足でくじけそうな時もあります。日々、コミュニケーションの大切さを実感しつつ、今後もしっ

かり情報共有できる環境を整え、全職員の医療安全に対する意識向上に努めていきたいと考えています。

次回号に紹介させていただく方は  
和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 医療安全管理室  
谷川 聖子様です

### 私の



### 《日本の看護師になった道》

社会医療法人 博寿会 山本病院 看護師 王 泰羽



私は三年前日本の看護師になるという夢を持って日本にきました。来たばかりの時、右も左もそしてわからない言葉ばかりでした。日本語学校で一年半の時間がかかって日本語能力試験N1に合格しました。N1の試験に合格してから看護師国家試験の勉強がはじまりました。最初は医学専門語ばかりで分かりにくく、普通の電子辞書で調べても無理な時は大変だと思い

ました。学校の先生や病院の先輩達の協力のおかげもあって段々わかるようになりました。半年ぐらい必死に頑張って合格しました。「私の夢は叶いました!」とても嬉しかったです。今看護師として働き始めてもう一年になります!あの頃のことを思い出したらどんな困難があっても怖がらないし、諦めません!!この経験は一生の財産になると思います。



和歌山県立医科大学附属病院紀北分院

谷口 奈華子



中学生の頃、特にきっかけもなく「私、看護師になる!」と宣言した。その決断は、ぶれることなく看護師になり、12年間続けることができています。職場が変わることもあったが、どこの施設でも人に恵まれ、看護を語り合える友人がいる。それをとても幸せに思う。仕事で悩んだときも、仲間と語り合うことで前向きになれる!患者さん・職場のスタッフ・友人達、人とのコミュニケーションを大切に笑顔で頑張りたい。

今回は、和歌山県立医科大学保健看護学部丸岡 朋子 さんをご紹介します。

## 訪問看護ステーションだより

紀州リハビリケア訪問看護ステーション 管理者

阪部 千加

紀州リハビリケア訪問看護ステーションは「和歌山市冬野」に事業所を構え、現在は看護師5名・セラピスト(PT/OT/ST)8名が常勤で在籍しております。

特徴としては多くの専門職が在籍していることより、幅広い専門的な視点や関わりで、「リハビリテーション看護」を提供しております。多職種協働で自立支援に取り組み、より専門的な支援にも対応できるよう、各専門分野のセラピストが在籍しております。また、嚥下障害においては嚥下障害専門の耳鼻科医と同行で行う「嚥下往診システム」を持ち、積極的な“食支援”にも取り組んでいます。

医学的管理のできる“デイサービスセンター”を併設しており、“ゆめの湖村方式”やセラピスト・介護福祉士による「リハビリテーション介護」など、自立支援型デイサービスセンターを目標にしております。食支援においては“嚥下食バイキング”を取り入れ、嚥下機能レベルに応じた食を楽しんで頂けます。

私たちは専門職が専門性を最大限に活かしたチームで、地域の皆様により質の高い医療ケアを提供できるように努力しております。



## ★★★フレッシュナース★★★

### 「看護師になって」



医療法人曙会 和歌浦中央病院 畠中 希衣

看護師として入職し、療養病棟に配属されてからの毎日は緊張の連続で一日があっという間に過ぎていきます。知識不足や、周囲のペースに付いていけないことにジレンマを感じる毎日ですが、病棟全体で私を育てようとしてサポートしてくださっており、疲れもさることながら充実感を感じています。療養病棟という事もあり、患者さんとも密に接する事が出来る為、少しでも早く個別性を持った看護が出来るよう頑張りたいと思っています。病棟には目標となる先輩が多く、着実に技術と知識を付けて、早く一人前の看護師として患者さんに信頼されるようになりたいです。



医療法人 南労会 紀和病院

鳴神 汐莉  
松村 亜美

晴れて看護師となりましたが覚えることが多く、周りを見る余裕もないなかで同期の支えと先輩方の指導やフォローを受けて、ようやく職場環境にも少し慣れてきたように思います。その分周りが見え始め、自分が行う処置やケアが全て患者様に影響することが徐々に解り、未熟さと看護師の責任の重さを実感しているところです。当院に入院される患者様は高齢で、幅広い疾患を持っているため、広い視野と知識を持つことが大切だと感じています。今後は知識と技術を身につけるためにいろいろなことに興味をもち、チームの一員として先輩方とともに患者様とご家族に笑顔で寄り添えるよう、がんばっていきたくと思っています。

### 「看護師になって」



くしもと町立病院 佐々木 武志

勤務して3ヶ月が経ちました。専門職として覚えることが多く、解らないことばかりで戸惑う日々が続いていますが、しかし、先輩看護師が親身に教えてくださいました。自己でも勉強することで、少しずつ自身の行動にも自信が持てるようになってきました。この先も、初めての処置や疾患に戸惑うことがあると思いますが、一つひとつ確実に自分のものにして成長していきたいです。看護学生の頃から現在まで、何度も挫折そうな時がありましたが、患者さまの言葉や笑顔に助けられ、ここまで来ることができました。

これからも感謝の気持ちを忘れずに、ひたむきに患者さまと向き合っていきたいと思っています。



那智勝浦町立温泉病院 山面 沙稀

私が新人看護師として入職してからもうすぐ3か月です。初めの頃は病棟の雰囲気にも緊張しっぱなしで毎日がただただ流れていきました。今は病棟の雰囲気にも慣れ、患者様と関わる時間が増えてきました。できる看護技術も増えてきた反面、できていないことや未熟さを実感しています。今後、忙しい中でも笑顔を忘れず、“この人にとって必要な看護は何か”ということを考えて動ける看護師を目指していきたいと思っています。そのために今は的確で安全な看護を実践していきたいです。そのために今は的確で安全な看護を実践していきたいです。そのために今は的確で安全な看護を実践していきたいです。

# My Hospital

## 高野町立高野山 総合診療所

看護師長 平田 敏枝

高野町は、和歌山県北東部に位置し東南部は奈良県と接している、標高 900 m の所にあり、総面積の 90% を 500 m 以上の高地で占める山岳地です。高野山を中心として大小合わせて 19 の集落が山々の狭少な平地に点在する特異な形態を有する町です。人口 3451 人うち 1000 人が僧侶です。

117 の寺院があり、役場、診療所、警察、消防、小中学校、高校、大学まで揃っているという特徴のある町です。

高野町の中心集落である高野山上は、高野山真言宗の聖地で貴重な文化財、建造物、名所が数多く存在し、2004 年には「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され、日本のみならず世界中から多くの観光客が訪れます。

今年は空海が高野山で真言密教の道場を開いて 1200 年を迎え 4 月 2 日から 5 月 21 日まで 50 日間記念大法会 1200 年祭が行われました。50 日間で日本全国から世界各国約 60 万人の人が訪れ、小さな町は観光バスと参拝者で溢れました。診療所にも参拝の観光客が救急も含めて約 100 人受診されました。



60年間病院として運営されてき

ましたが、人口の減少による入院患者の減少とマンパワーの確保が困難になったため、入院機能の継続を断念しました。2012 年 4 月 1 日より外来診療と在宅診療に診療形態を変更し、高野町立高野山総合診療所としてスタートしました。観光地のため町内の人以外に旅行者の急患や外国の方が来院します。入院が必要な場合は、診断後広域対応にて搬送します。外国人の中には、通訳の方がいない場合もあり片言の英語や身振り手振りで対応します。

訪問看護は、看護師 2 名で山間部で暮らす高齢者の所に出掛けています。内服管理や入浴介助、認知症の夫婦の話を聞いたり、ターミナル期の本人や家族のサポートをしています。

診療形態が病院から診療所に変更になり、不安の声を聞きますが、住民の方が安心して生活できるよう、多くの観光客が安心して訪れて頂けるように努めていきたいと思ひます。

## 和歌山県看護協会の動き

### 平成 27 年度 第 3 回 理事会

開催日時：平成 27 年 6 月 22 日（月）13:00～15:00  
場 所：看護研修センター 会議室

#### I 協議事項

1. 副会長・専務理事の選任について
2. 円滑な事業運営  
(理事会などの年間計画について)

3. 常任・特別委員会の諮問事項について
4. 和歌山県ナース章の推薦について

#### II 報告事項

1. 日本看護協会理事会報告



## 「まちの保健室」



## 和歌山県立 向陽高等学校文化祭 健康チェック・健康相談、 ナースのお仕事相談



高校生やそのPTA、地域住民、教員の方180名あまりが向陽高等学校文化祭のまちの保健室に参加されました。普段骨密度検査を受けることがない高校生が神妙に検査を受ける表情が初々しかったです。「やばい、相談や」と相談コーナーにいく子、昨年と同じくらいと安堵される女性の方、このまちの保健室をきっかけに日常生活を意識的におくり、健康づくりに励んでいただけたらと思いました。

ナースセンター 中川 京子

### あなたの資格を活かしませんか。

今年10月から看護職のナースセンターへの届出制度が始まります。  
 離職している方、これから離職を考えている方、ぜひ和歌山県ナースセンターへ届出をお願いします。  
 届出の内容は、①氏名・生年月日・住所 ②電話番号・電子メールアドレスその他連絡先  
 ③看護師等の籍の登録番号および登録年月日 ④就業に関する情報 です。  
 詳細は、和歌山県ナースセンターへお問い合わせください。(電話番号 073-483-0234、073-483-1005)



心地よい眠りで、あなたの元気を応援します。

## 東洋羽毛のゴア® 羽毛ふとん

汚れのもとになるものは、ふとんの中に入りません。

寝ているときの汗は、こもりません。

まるでふとんが、呼吸をするように

いつも衛生的で、心地よい温かさを保ちます。

温かいを超えた、至福の寝心地を、

是非お試しください。



**TUK**  
東洋羽毛関西販売株式会社

和歌山営業所  
〒640-8329 和歌山県和歌山市田中町2-18-1-2F  
☎ 0120-32-7766  
ホームページアドレス <http://www.toyoumo.co.jp>

清潔・きれい・衛生  
Bedding Products

# 平成 27 年度 役員・各委員及び地区支部長名簿

★印は委員長

役 職 名	氏 名	役 職 名	氏 名	役 職 名	氏 名	
<b>役 員</b>		<b>看護師職能委員Ⅱ</b>		<b>特別委員</b>		
会 長	古 川 紀 子		★中 野 美 枝	[まちの保健室]運営委員	★野 上 千 晶	
副会長	東 直 子		戸 石 未 央		小田垣 弥智世	
副会長	塩 路 有 理		山 下 陽 子		川 口 好 美	
専務理事	小 泉 美 穂		丸 岡 朋 子		佐 藤 美 江	
常任理事	山 本 喜 久 子		佐 藤 房 子		岸 田 研 一	
理事 書記長	山 本 美 代		東 る み 子		ナースセンター推進委員	★上 田 陽 子
保健師職能委員長	櫻 根 桂 子		角 敬 子		高 垣 通 代	
助産師職能委員長	坂 本 裕 美 子		南 た え こ		竹 内 良 子	
看護師職能委員長Ⅰ	澤 田 康 幸	<b>常 任 委 員</b>			坂 口 ス マ 子	
看護師職能委員長Ⅱ	中 野 美 枝	<b>社会経済福祉委員</b>	★名 越 幸		櫻 根 桂 子	
伊都地区支部長	岩 崎 留 美		鈴 木 正 代	認定看護管理者 教育運営委員	★藤 本 美 幸	
那賀地区支部長	大久保 まさ子		湯 口 真 帆		柏 谷 恵 子	
和歌山地区支部長	松 尾 文 美		土 井 志 保		坂 本 美 弥	
海南・海草郡地区支部長	清 水 多 津 子		和 田 裕 子		素 川 美 雪	
有田地区支部長	古 川 さ ゆ	<b>教育委員</b>	★大 江 勤 子		芝 瀧 ひ ろ み	
日高地区支部長	東 る み 子		榎 本 真 次		坂 本 由 希 子	
田辺地区支部長	松 元 由 美		湯 田 周 志			
新宮・串本地区支部長	佃 瑞 穂		中 本 昌 子		<b>そ の 他 委 員</b>	
准看護師理事	中 西 郁 代		阪 本 千 佳		ワーク・ライフ・バランス	★角 谷 知 恵 美
監事	澤 越 純 子		津 田 由 佳		推進委員	亀 田 登 代 美
//	温 忍		岡 本 真 紀		金 川 め ぐ み	
<b>職 能 委 員</b>			竹 内 つ や 子		辻 あ さ み	
保健師職能委員	★櫻 根 桂 子	<b>広報委員</b>	赤 松 信 也		吉 田 眞 利 子	
	脇 田 美 恵		開 発 一 恵		佐 野 恵 子	
	木 下 有 香		★河 村 真 由 美		吉 見 友 弘	
	橋 本 照 代		岡 由 美		東 利 行	
	嶋 田 彩		仲 谷 早 苗		小 松 仁 美	
	黒 田 恵 美		宮 本 美 紀		池 田 亜 矢 子	
	尾 崎 裕 美		北 村 勝 孝		★黒 田 美 也 子	
助産師職能委員	井 内 祥 子	<b>医療安全対策委員</b>	林 清 高		角 谷 知 恵 美	
	瓜 田 眞 理 子		★谷 川 聖 子		松 尾 文 美	
	看護師職能委員Ⅰ		★坂 本 裕 美 子	新 谷 恭 子		高 岸 壽 美
			小 谷 悦 子	山 中 大 城		佐 野 恵 子
			松 本 千 寿	田 中 由 佳 子		亀 田 登 代 美
			浦 由 香	深 瀬 良 子		★石 井 美 保
			吉 村 友 美	伊 都 香		露 詰 公 子
宮 本 眞 由 美		★大 江 徳 子		上 田 由 美 代		
樞 本 利 絵	山 田 恵 美		小 山 美 代			
看護師職能委員Ⅱ	★澤 田 康 幸	<b>災害看護対策委員</b>	柳 岡 佐 智 子		大久保 雅 世	
	中 野 文 代		北 山 加 津 子		山 家 久 登 美	
	山 本 初 太 郎		星 田 龍 也			
	播 島 京 子		★坂 口 正			
	和 田 記 代 子		廣 瀨 朱 実			
	舩 野 眞 樹		内 芝 秀 樹			
	中 村 亜 由 美		久 保 乃 英			
	土 山 美 恵 子		曲 師 昌 子			
			武 用 百 子			

## 三知事とメディカル・スタッフ団体および病院協会長との懇談会

専務理事 小泉 美穂

平成 27 年 7 月 14 日（火）19 時からホテルアバローム紀の国で標記懇談会が開催されました。県担当者からは、地域医療構想、輸入感染症対策、がん対策、国体におけるドーピング対策など説明後、各種職能団体への支援・協力依頼がありました。その後看護協会を含む 8 職能団体から概要や課題について仁坂知事に説明をしました。看護協会からは、2025 年問題に向けての取り組みと、救急看護認定

看護師教育課程の 9 月開校に向けての経過を説明しました。活発な意見交換がなされ、21 時に閉会をしました。



## 三新人看護職員オリエンテーションを開催しました。

平成 27 年 6 月 28 日（日）、7 月 18 日（土）、標記事業を開催しました。午前中は、DVD「ようこそ日本看護協会へ」の視聴、「看護協会の活動と医療チームの一員として」の講義がありました。午後は、先輩看護師（西川沙希氏：和歌山県立医科大学附属病院、西山誠二氏：琴の浦リハビリテーションセンター附属病院、長谷量子氏：海南医療センター、加藤まみの氏：名手病院）をお招きし、「いきいきと働くために」と題して、体験談をお話していただきました。そのあと、グループに分かれ「いきいきと働くために」どうすればよいかを話し合いをしました。

「一人ではなくてはいけないことが増えて不安である」「仕事の優先順位がわからない、時間管理ができない」「聞きたいことが聞けない」

など現状を出し合い、「いきいきと働くために」の解決策を話しあいました。「わからないことはメモをして時間があるときに調べる、聞く」「積極的に先輩に話しかける」「プライベートでリフレッシュする」など多くの意見が出されました。今後もみんな支え合いながら、働き続けて欲しいものです。



## 三世界禁煙デーフォーラム2015に参加して

社会経済福祉委員 和田 裕子

5 月 31 日、「タバコとスポーツ」をテーマに、中京大学スポーツ科学部教授の家田重晴氏、那智勝浦町立温泉病院院長の山本康久氏を迎え、県立和歌山工業高校で世界禁煙デーフォーラムが開催されました。

世の中の人達は、アスリートは健康的なイメージを持っている。以前は「自分は鍛えているから、タバコを吸っても大酒を飲んでいても大丈夫、スポーツをするにも問題ない」という間違った考え方が広まっていた。

しかしタバコは、筋肉・骨への影響も大きく、吸うことにより、血管の収縮が起き、創傷治癒時間が延長する。また、非喫煙者は 2 か月で骨を 1 cm 作るのに対し喫煙者では平均 3 か月かかり骨の治癒も遅らせるという報告もある。高校の授業科目「保健」では、1994 年度から「現在社会と健康」で喫煙防止の内容が、中学校の保健分野でも 1993 年度から「疾

病の予防」で、喫煙の害が扱われるようになった。学校での喫煙教育が始まり、米国と日本の中・高校生の喫煙状況をみると、日本では生徒の喫煙が大幅に減少している。

2002 年度に、和歌山県が全公立高校を敷地内禁煙にした。2004 年度では、41 都道府県が敷地内禁煙にしている。体育館やグラウンドを含んで敷地内禁煙になっているので、タバコを吸わないアスリートの育成に大変役立っている。一般の方々も試合に来るのでその人たちにもタバコを吸わないモデルとなる。スポーツ選手に、タバコを吸わない風土を作っていく環境づくりも必要である。タバコを吸いにくい環境づくり＝タバコを吸わないアスリートの育成につながる。近年、スタジアムや大学構内の敷地内禁煙も進んでいる。（受動喫煙防止のため）

みんなで、タバコのない社会を目指そう !!

そのためには環境づくりに力を費やす必要がある。



## あなたのために、できること あなたに、できること

### 夜勤・交代制勤務の負担軽減への取組み

紀南病院 林 弘子

2011年6月「協会ニュース」で夜勤交代制勤務に関するガイドライン骨子(案)が掲載され、健康・安全・生活のリスクが発表された。

リスク低減のため、2012年5月看護師長会でワーキンググループを立ち上げた。「勤務構成基準」11項目にそって、当院の勤務実態を確認すると「基準1:勤務間隔」「基準10:正循環交代周期」が未実施であったが、他の9項目は、おおむね基準に達していた。日勤→深夜の間隔が7時間15分、しかも看護記録等で時間外になっていることが多く、日勤の疲労が回復しないまま深夜勤務を行っている現状であった。リスクから考え、当院として優先度の高い「勤務間隔」から取り組むことにした。まず、日勤→深夜の間隔を11時間あける半日→深夜・休み→深夜を平日からでも導入出来ないか検討した。

模擬勤務表を3~4パターン作成し、7月から2部署で試行的に運用開始した。

試行部署にアンケートを実施すると「気持ちが楽になり家族への負担が減った」「時間的に余裕ができた」「眠る時間は変わらないが気分的に楽に感じる」「休みがもったいない」「半日勤だと他のスタッフに負担がかかる」「半日の仕事は中途半端」等の意見があった。反対意見も多く、圧縮勤務は、身体や家族に負担がかかるが、深夜を乗り越えれば長時間休める利点を感じていた。職員には、リスクを低減するため、又、将来の看護師のことも考えて、導入する必要があることを、その都度、根気強く看護師長が中心になり説明していった。

今年でワーキンググループ活動も4年目を迎え、表1のように着実に拡大している。

表1 勤務間隔(11時間以上)実施状況

年度	結果		
2012年度	7月から2部署	9月から3部署	10月から4部署
2013年度	9部署(ICU・救急室を除く) 平日の半日又は休み→深夜の割合53.7%(最高部署91.9%・最低部署23.4%)		
2014年度	9部署(ICU・救急室を除く) 平日の半日又は休み→深夜の割合70.3%(最高部署87.9%・最低部署44.5%)		

着実に拡大してきている理由をまとめると

- ①夜勤・交代制勤務のガイドラインをもとに健康・安全・生活のリスクから職員に働きかけたこと
- ②勤務間隔を重視し勤務表を作成していること
- ③現場の意見を聞き少しずつ業務の整理を行ったこと
- ④看護職員が、半日又は休み→深夜勤務を体験し、心身が楽であったことが挙げられる。



#### 当院の概況

- ・病床数: 356床
- ・看護体制: 7対1
- ・勤務形態: 3交代制
- ・看護職員数(臨時職員含む): 423名 うち産育休者37名 (2015年6月)
- ・一日平均入院患者数: 307.3人 (2014年度)
- ・平均在院日数: 11.8日 (2014年度)

第21回

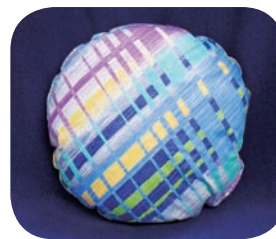
プレゼント!

はがきに ①希望の商品名 ②氏名 ③会員番号 ④郵便番号・住所 ⑤電話番号 ⑥勤務先名 ⑦本紙へのご意見・ご要望を明記の上、9月25日(金)までにお送りください。

(消印有効・1人1通のみ)

抽選の上、当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

宛先 〒642-0017 海南市南赤坂17 和歌山県看護協会 「8月号プレゼント」係



「足まくら」  
を  
2名様に!

どちらか1つ  
当たります!

「図書券」  
1,000円分を  
3名様に!

お詫び

平成27年5月発行 第131号において発行所の郵便番号・住所・TEL・FAX番号が変更されていませんでした。深くお詫び申し上げます。